

## 会員報告

### Hawaii 音楽活動報告

宮野 秀樹

去る 2016 年 11 月 30 日 (水) ~12 月 5 日 (月) の日程でハワイのオアフ島に行ってきました。ちょっと変わった経緯でのハワイへの旅でしたので報告しておきたいと思います。

実は昨年ハワイへは今回を含めて 2 回行っています。1 回目は初ハワイであり、完全なプライベートでした。なぜ 1 年に 2 回もハワイへ行ったのか? 考えてみると贅沢な話ですよ。2 回目に行ったハワイへの旅は明確な目的がありました。以前から交流があり公私ともに親交を深めている沖縄の三線奏者・我如古盛健さん (通称: ケンさん) から、障害のある仲間たちが「音楽が好き!!」という 1 つの想いで集まっているバンド「ケントミファミリー」を引き連れて、音楽活動をハワイで行うから一緒に来ませんか? と誘いを受けたのがきっかけでした。これまで音楽活動らしい活動はやっていなかった私ですが、昨年、所属する法人のスタッフと音楽ユニットを組み、ケンさんが主催する音楽祭「愛音楽 (アネラ) 音楽祭」に出場し、見事アネラ賞 (大賞) を受賞したことで調子に乗ってしまいました。音楽活動に色気が出てきてしまい、ハワイのどのような場所で音楽活動を展開するのか興味を持ってしまったため、ケントミファミリーに帯同することに決めたというワケです。

通常は関西国際空港からハワイ・ホノルル空港に飛び立つのですが、今回は那覇空港→羽田空港→ホノルル空港という行程のケントミファミリーに合わせ、私も羽田空港からハワイに向かうことにしました。新幹線と電車 (京急) を利用して羽田空港へ。いつものように運搬型簡

易組立式リフトとエアーマットを持参したのですが、1 名の介助者でこの大荷物を持って運ぶことは不可能であったため、空港ゆうパック (日本郵便) を利用して荷物を空港内カウンターで受け取れるようにしました。ANA の国際線で航空機に預けられる重量 (個数は 2 つ、1 つ 23kg まで) をスーツケースや運搬型簡易組立式リフトがクリアできるかが心配でしたが、無事にチェックインカウンターで預けることができました (本当は少し重量をオーバーしていましたが、厚意で通してもらえました)。ケントミファミリーと合流してみんなで記念撮影後、4 台の電動車椅子を含む計 9 名の障害者が一斉に航空機に乗り込みました。もちろん電動車椅子組の私は最初に乗り込みました。いつも通り機内用車椅子に乗り換え、いつも通り座席に乗り移り…とここで予期せぬ事態が!



羽田空港にてツアーメンバー一同

座席に乗り移った瞬間、プーンと嫌な臭いが…「まさかね…」と思いつつ介助者に確認してもらったところ、残念なことにストーマ装具が皮膚から外れて便が漏れてしまったという最悪の状況であることが判明したのです。フレンジ

(面板：皮膚に貼り付ける装具)から漏れた便が衣服を汚していなかったのがせめてもの救い。CA にお願ひして機内移動用車椅子を用意してもらい、機内用トイレへ直行。一般乗客が続々と乗り込んでくる中、出発前ギリギリで装具の交換が完了。ある程度修羅場をくぐってきたせいか、私も介助者も不思議なくらい落ち着いて処理をしていました。いつもながら私の旅にはハプニングがつきもの。でも、さすがにこんなハプニングは遠慮したいです。ピンチを切り抜けた安堵感からかおなかが緩んでしまい、ハワイまでの航空機内で2回もトイレに行くことに…経験値は上がりましたが気も遣いました。こればかりは不可抗力ゆえ仕方がないことですが、できれば遠慮したい経験ですね。



このあとに悲劇が…

それにしても7~8時間のフライトは頸損者には地獄ですね。同じ姿勢のままというのは…全く寝られな一い！いくら麻痺しているとはいえ、腰が痛い、尻が痛い、精神的に辛い！この苦痛さえなければハワイ旅行は最高なのに…と考えながらひたすら時間が過ぎるのを耐えて待つ。ようやく眠気が…というところで「あと20分ほどでホノルル空港に到着いたします」とアナウンスが。一睡もできず(介助者も私の“常に話しかける”攻撃で一睡もできず)にハワイ(オ

アフ島)に到着したのです。(それでも救われるのは“CAの心配り”。体のあちこちが痛いと訴える私にブランケットや枕を運んでくれて、トイレに行きたいと訴える私を機内移動用車椅子で押して連れて行ってくれる。その全てに笑顔で対応してくれる。本当に感謝です。)

ホノルル空港の入国審査がとにかく長い！通過するまで1時間はかかっているのでは？というくらい長い時間を待たされます。電動車椅子のリクライニング機能に助けられますが、一睡もできず苦痛を強いられた体には「ちょっと待つ」というのもただただ苦痛でしかありません。審査をクリアして荷物受け取り場所へ向かう頃には一気に疲れが押し寄せます。たくさんの荷物を抱え、フラフラしながら団体出口に向かい、移動用のバスが待っている場所へ。

今回の旅行を手配してくれたのはH. I. S. (以下、HIS)のユニバーサルツーリズムデスクでした。HISが用意してくれたのは“リフト付き観光バス”。リフト？と聞いて不安が横切りましたが、垂直に駆動するリフトは難なく私ごと電動車椅子を持ち上げてくれたのです。計16名のメンバー全員乗り込んでホテルOHANA Waikiki Maliaへ向けて「いざ出発！」



内心は落ちないがドキドキでした(笑)

ちなみにこの時期（12月）のオアフ島の天候は、晴れていて日差しが強いのに雨が降るといふ日本にはあまりない天候です。おまけに風が強いので寒さも感じられます。とはいっても、やはりハワイ！頸損には過ごしやすい気候であることは間違いないです。

ホテルに到着後、ひと息ついてからロビーに集合。早速予約していた「車椅子ハワイ・ドットコム」のリフト付き福祉車両（実は前回初ハワイの時に利用しました。オーナー兼ドライバーの鈴木さんはとってもいい人です。）に乗り込み、最初の訪問先「Shriners Hospitals for Children Honolulu」へ。いわゆる小児病院で、ポリオの患者が多く入院しているらしい（近隣の島からの入院患者が多いとのこと）。ロビーに集まってくれた子どもたちは「今から何が始まるんだろう？」とワクワクそれで見知らぬ日本人車椅子ユーザーにちょっぴりオドオドといった感じ。私が電動車椅子で動く様は、どこに行っても注目を浴びるので可笑的い。

このハワイでの音楽活動の訪問先をコーディネートしてくださったハワイ沖縄県人会連合会会長・東恩納良吉さんの挨拶の後、ケンさんのオープニングトーク、そしてケントミファミリーの演奏が始まりました。ケントミファミリー・新垣元気さんのジャンベ（太鼓）から始まる「たちとうし（瀧落とし）」。そして私が大好きな曲「仕合わせのウマイ唄」へと演奏が続きます。子どもたちはどんな反応かな～？と目をやると、やはり音楽は世界共通の言葉なんです！子どもたちがニコニコしながら演奏に合わせてリズムを取っている姿を見たとき、あらためて音楽の持つパワーを感じました。子どもたちが特に反応していたのは太鼓。太鼓の響きも世界共通言語なんです。パーランクー（タンバリンのような太鼓）を渡すと、見よう見まねでたたき出す。これがまたみんなキャッキヤ、キャッキヤと楽しそう。ちょっと驚いたのが、

子どもたちの中にやんちゃそうな中学生？くらいの boy がいたのですが、最初は照れて踊らなかったのに、最後のほうに演奏された「だいじょうぶよー」の頃にはすっかりとノリノリでパーランクーを叩きながらカチャーシーを踊っていました(笑)



ケントミファミリー演奏の様子

予想以上の歓迎と、演奏がうまくいきご機嫌で Shriners Hospitals を後に。ホテルに戻ってそこから夕食へワイキキビーチ方面に繰り出しました。地元でも有名なビアバー「Yard House Waikiki」にてビールをグイッと…ここで一睡もしていなかったツケが回ってきて撃沈。介助者曰く、ホテルに戻るまでと戻ってから一言も発さず、ベッドに上げた途端、凄まじいいびきをかいて good night していたそうです。



Yard House のオーナーと記念撮影

今回は原稿枚数制限のためここまで。次号で完結予定の音楽活動報告を乞うご期待！